

1人1台端末の活用による実践事例 (小・中学校用)

学校名	倉敷市立東陽中学校	実践者名	服部 直英
教科	国語	学年	1年
活用内容	資料づくり 意見交流	実践日	令和3年11月11日
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 2
単元・内容等	方言と共通語(光村図書 国語1)		

活用の概要 (目的・活用場面・使用アプリ名を含む)

【概要】

普段の会話の中で、生徒があらゆる場面で方言を使っていることに気付かせる。その後、地元の方言の例を出したり、有名な方言の例を出したりする。方言新聞の創作活動では、各都道府県では比較することが難しいと判断し、人気の方言ランキングをもとに、岡山弁、大阪弁、博多弁、京都弁から選び、由来や使い方などについて調べた。



【本時】

(1) めあてを提示し、授業の流れをつかむ。

めあて ロイロノートを活用して、方言新聞を作ろう。

(2) ロイロノートの「資料箱」にあらかじめ例を入れておき、それをもとに様々な方言について調べる。

(3) 画面共有をして、それぞれの方言の違いについて調べる。

(4) 方言の特徴と共通語の特徴について考える。

(5) まとめと振り返りを行う。

実践者の手ごたえ	児童生徒・保護者等の主な反応や声
ロイロノートを活用し、教材提示装置を使うことなく画面共有で授業が行えたので、資料の提示や振り返りがスムーズに進み、効率的に学習をすることができた。	(生徒から) 「ロイロノートは画像やイラストも付け加えられるので、様々な工夫ができる。クラスみんなに見てもらうことで、どのようにすれば見やすくなる工夫をこらすことができて楽しかった。」